

Disaster Med Public Health Prep. 2025; 19: e142.

雑誌：Disaster Medicine and Public Health Preparedness

題名：Stable Iodine Intake During Pregnancy and Children's Thyroid Screening Outcomes After the 2011 Fukushima Nuclear Disaster in Japan: A Municipality-based Descriptive Study

2011 年福島原子力災害後の妊婦における安定ヨウ素剤内服と出生児の甲状腺検査結果

著者：Yoshitaka Nishikawa, Chiaki Suzuki, Fumiya Oguro, Aya Goto, Masaharu Tsubokura（福島県立医科大学, 京都大学）

2011 年の福島第一原発事故時の妊婦の安定ヨウ素剤内服実態と、その後出生した子どもたちの甲状腺超音波検査結果について調査しました。本調査により、原子力発電所事故発生時の妊婦の安定ヨウ素剤の内服割合は 34.9%と、子どもの内服割合より低かったことがわかりました。また、安定ヨウ素剤内服の有無によって出生児に要精密検査となるような甲状腺異常はありませんでした。地域住民の日常的に十分なヨウ素栄養状態や、事故時の被ばく線量の低さが、甲状腺への影響を限定的なものとしたと考えられます。

J Clin Endocrinol Metab. 2025; dgaf312.

雑誌：Journal of Clinical Endocrinology & Metabolism

題名：Stable iodine intake and thyroid screening outcomes after the Fukushima Nuclear Disaster: an observational study

福島原子力災害後の安定ヨウ素剤内服と甲状腺検査結果

著者：Yoshitaka Nishikawa, Fumiya Oguro, Chiaki Suzuki, Yurie Kobashi, Naomi Ito, Yoshimitsu Takahashi, Takeo Nakayama, Aya Goto, Masaharu Tsubokura（京都大学, 福島県立医科大学）

2011 年の福島第一原発事故で安定ヨウ素剤の配布と内服指示が実施された三春町の子どもたちを対象に調査を実施しました。本調査では、災害時の安定ヨウ素剤の服用歴などを含む住民アンケートと甲状腺超音波検診結果をふまえ、安定ヨウ素剤の内服有無が甲状腺の状態と関係するかを分析しました。その結果、安定ヨウ素剤の服用と甲状腺の要精密検査には差は認められませんでした。同町の住民集団では原発事故後の放射線被ばく量が低く、ふだんの食生活でのヨウ素摂取量も十分であったことから、原子力発電所事故による甲状腺への影響が最小限に留まったためと考えられます。また、甲状腺の体積や組織所見にも違いは認めず、安定ヨウ素剤を内服することによる副作用が大きいことも示唆されました。今後は原子力災害に備えるための地域ごと対応や子どもや保護者へのスムーズな健康情報提供体制のあり方など、更なる調査が期待されます。

報告者：後藤あや（福島県立医科大学）

概要作成：西川佳孝（京都大学）